

産業環境委員会報告資料

令和 7 年 1 1 月 1 2 日

報告事項件名	頁
(1) 令和 7 年度の首都圏再エネ電力共同オークションの進捗状況について	2
(2) プラスチック分別回収モデル事業の実施状況について	4

(環 境 部)

産業環境委員会報告資料

令和7年11月12日

件名	令和7年度の首都圏再エネ電力共同オークションの進捗状況について																
所管部課名	環境部環境政策課																
内容	令和5年7月に株式会社エナードと締結した「再生可能エネルギー電力の利用促進に関する連携協定」に基づく、首都圏再エネ電力共同オークション（以下、「共同オークション」という。）の進捗状況について報告する。 1 再エネ電力共同オークションの概略 再エネ電力の利用を希望する事業者をグループ化（共同）してスケールメリットを確保し、競り下げ方式のオークション（※）を行うことで料金を抑制して再エネ電力を調達する仕組み。 ※ 事業者の希望により、単独でのオークションも可 2 現在までの進捗 （1）区内事業者について ア 東京商工会議所足立支部を通じた周知や事業者への個別訪問等により、令和6年度は首都圏最多の7社が共同オークションに参加し再エネ電力への切替を行った。 その結果、令和7年度では7社合計で約735.56tのCO₂排出量削減となる見込みである。 イ 7社には、令和7年5月から順次個別訪問を行い、再エネ電力切替の効果等を取材し、その結果を9月から区ホームページに掲載して情報発信している。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>企業名（50音順）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>足立成和信用金庫（本店）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>有限会社喜田家</td></tr> <tr> <td>3</td><td>弘和印刷株式会社</td></tr> <tr> <td>4</td><td>東光薬品工業株式会社</td></tr> <tr> <td>5</td><td>株式会社トミテック</td></tr> <tr> <td>6</td><td>美濃紙業株式会社</td></tr> <tr> <td>7</td><td>株式会社ヨシオ</td></tr> </tbody> </table> ウ 令和7年度は6社が共同オークション（内1社は単独オークションを希望）への参加意向を示している（令和7年9月末時点）。		企業名（50音順）	1	足立成和信用金庫（本店）	2	有限会社喜田家	3	弘和印刷株式会社	4	東光薬品工業株式会社	5	株式会社トミテック	6	美濃紙業株式会社	7	株式会社ヨシオ
	企業名（50音順）																
1	足立成和信用金庫（本店）																
2	有限会社喜田家																
3	弘和印刷株式会社																
4	東光薬品工業株式会社																
5	株式会社トミテック																
6	美濃紙業株式会社																
7	株式会社ヨシオ																

(2) 区施設について

ア 区施設における共同オークション参加のメリットを検証するため、足立清掃事務所において他自治体と合同での共同オークションに参加し、令和7年4月から落札業者との電力契約を行っている。

イ 電力調達コストは、対前年度比で約10%削減できている（令和7年9月時点）。

3 今後の方針

(1) 共同オークションで得られた効果などを区内事業者へ情報発信し、再エネ電力のさらなる導入促進を図る。

(2) 足立清掃事務所については、令和8年度も共同オークションに参加して、入札結果や契約内容、コストやCO₂排出削減量などの効果検証を環境部内で行う。令和8年8月頃を目途に、令和9年度以降の区施設への導入拡大について判断する。

産業環境委員会報告資料

令和7年11月12日

件名	プラスチック分別回収モデル事業の実施状況について																				
所管部課名	環境部足立清掃事務所																				
内 容	令和6年度より区内一部地域で先行実施しているプラスチック分別回収モデル事業について、以下のとおり報告する。																				
	1 プラスチック回収量等の実績【上半期：4月～9月】																				
	<table><tr><th>年度</th><th>回収量</th><th>資源化量</th><th>資源化率</th><th>CO2削減量</th></tr><tr><td>6年度</td><td>579.48 t</td><td>527.98 t</td><td>91.1 %</td><td>776.13 t</td></tr><tr><td>7年度</td><td>569.18 t</td><td>505.55 t</td><td>88.8 %</td><td>743.16 t</td></tr><tr><td>前年比</td><td>98.2 %</td><td>95.8 %</td><td>97.5 %</td><td>95.8 %</td></tr></table>	年度	回収量	資源化量	資源化率	CO2削減量	6年度	579.48 t	527.98 t	91.1 %	776.13 t	7年度	569.18 t	505.55 t	88.8 %	743.16 t	前年比	98.2 %	95.8 %	97.5 %	95.8 %
	年度	回収量	資源化量	資源化率	CO2削減量																
	6年度	579.48 t	527.98 t	91.1 %	776.13 t																
7年度	569.18 t	505.55 t	88.8 %	743.16 t																	
前年比	98.2 %	95.8 %	97.5 %	95.8 %																	
※ 回収量と資源化量の差は、食品や紙類等の ^{ざんさ} 残渣、金属や医療廃棄物などのリサイクルに適さないもの																					
※ CO ₂ 削減量は、資源化量1 tあたり1.47 tで算出																					
	プラスチック回収実績【上半期：4月～9月】 <table><thead><tr><th>項目</th><th>6年度</th><th>7年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>回収量</td><td>579.48</td><td>569.18</td></tr><tr><td>資源化量</td><td>527.98</td><td>505.55</td></tr><tr><td>CO₂削減量</td><td>776.13</td><td>743.16</td></tr></tbody></table>	項目	6年度	7年度	回収量	579.48	569.18	資源化量	527.98	505.55	CO ₂ 削減量	776.13	743.16								
項目	6年度	7年度																			
回収量	579.48	569.18																			
資源化量	527.98	505.55																			
CO ₂ 削減量	776.13	743.16																			

2 プラスチックの再商品化手法について

年度	再商品化事業者	リサイクル手法	概要
6年度	株式会社 レゾナック (川崎市)	ケミカル リサイクル (ガス化)	低温炉と高温炉の二段階でガス化することにより、アンモニア（繊維原料）やドライアイス、液化炭酸ガスに再商品化する。
7年度	株式会社 富山環境整備 (富山市)	マテリアル (材料) リサイクル	破碎・選別後、リサイクル原材料（ペレット）に加工し、再生樹脂や建築資材等に再商品化する。

※ 再商品化事業者は、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会が実施する競争入札により選定される。

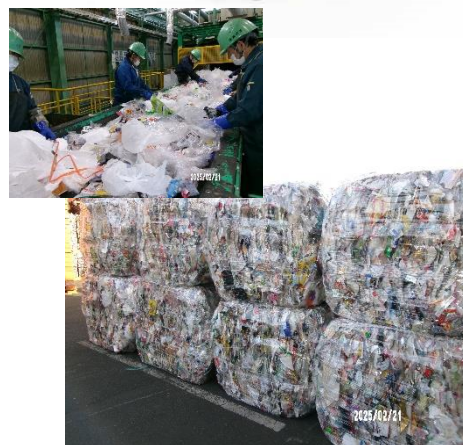
【参考】マテリアル（材料）リサイクルの工程

①【資源化施設】

資源化委託において、異物除去、選別、圧縮・梱包したベールを再商品化事業者引き渡す。

※ ベールとは、資源化処理後に輸送効率を高めるために圧縮及び梱包した状態。

(参考) 1 ベールの重量・寸法
約 250 k g (1.2m×1.2m×1.2m)



ベール

②【再商品化事業者】

引き取ったベールを解体後、破碎、選別、洗浄・乾燥し、ペレット（粒状のリサイクル原材料）にする。



ペレット

③【再商品化事業者】

ペレットを加工・成形し、工業用パレットや建築資材等に再商品化する。



再商品例

3 今後の方針

- (1) SNSやあだち広報により、区内全域実施の周知と併せて、改めて「回収できるプラスチック」を周知し、資源化率の向上を図る。
- (2) 令和8年度は、プラスチック回収専門の排出指導班を時限的に編成し、区内全域実施に対応する。